

農業公園構想について

(平成 24 年第 2 回津幡町議会定例会 6 月会議 一般質問)

平成 24 年 6 月 22 日

黒 田 英 世

今年の 3 月末に津幡町農業公園構想に関して昨年の 6 月に設置されたプロジェクトチームから町長に対して答申がなされ、その後、議会全員協議会において答申内容について大まかな説明がされました。いくつある候補地のうちプロジェクトとしてさまざまな観点から候補地も絞りこまれたようでもあります。

これ等の答申に対してこの後、候補地の適性や年間 22 万人とされる入園者数の信憑性の検証、完成までの事業費の総額予測、投資効率の問題、更には、収穫体験や加工体験ができるような、本格稼動するまでの期間や、財政補助団体とならないための運営形態などが十分に検討・検証され、その上で着工されるまでには住民の皆さんや議会の意見を聞くことなど、幾つかの課題をクリアーし、最終的には実施設計に入るものとおもいます。

さて、その前に町として確たるビジョンを持つべきではないかと考えています。将来の津幡町のあり方、「求められる町の性格・創り上げたい町の性格」を明確にし、それに沿って一つ一つの具体的な施策を着実に実行していくべきであると考えます。

総花的に観光地としても、ベットタウンとしても、企業誘致も、と言う構想では全てが中途半端になり津幡町としての「色」が明確にならず「魅力ある住んでみたい町」にはならないのではないのでしょうか。

例えば、交通の要衝としての長所を活かし、しっかりと将来を見据えた都市計画のもと金沢市のベットタウンとしての位置づけをして定住人口の増加を図るのか、また、通過するだけの観光地ではなく滞在できる観光地としての基盤整備をして、現在ある観光資源を活かすと同時に新たな観光資源を創り出し、農業公園もこのうちのひとつかも知れませんが、いずれにしても観光地として町の活性化を目指すのか、企業誘致を最優先させるのかであります。

加えて言えばこれらのいくつかを有効かつ有機的に繋ぎ、町全体としてまとまりのある町づくりをしていくのが大切であります。

これ等を実行していくのに、看過してはならない重要な課題が町の財政状況と優先順位の問題であります。

現在、地方自治体の財政状況はごく一部を除いては決して潤沢ではありません。当町も同様であります。

したがって、こうした時期にこそ今ほど申し上げた中・長期の町づくり計画の中で「求められる町・創り上げたい町」「すみたいと思う町」を明確にし、財政に裏打ちされた優先順位をしっかりと立てて、それに沿った施策に対して着実に実行していくべきであると考えますが矢田町長の見解をお聞きします。

職員の改善工夫提案制度について

(平成 24 年第 2 回津幡町議会定例会 6 月会議 一般質問)

平成 24 年 6 月 22 日

黒 田 英 世

5 月 18 日に開催された議会全員協議会において総務課長から 23 年度の職員からの改善工夫提案の件数について報告がありました。

現在は残念ながら運動は停滞し昨年度は年間 38 件といかにも少ないと思います。当日も要望として制度の活性化についてお願いを申し上げましたが、改善工夫提案制度は、町の活性化や住民サービスの向上、業務の効率化、コストダウンなどに直結する重要な活動であります。

企業が生き残るためには様々な観点からの顧客満足度が最も重要であり、この実現のためには多種多様なアイデアの発掘が必要であります。このことは行政においても同じであり、住民サービスの向上や業務の効率化は町民の行政に対する信頼と協力や安心にもつながります。

私自身こうした制度に携わっていたこともありますが、職員や社員から提案が出てこない、運動が継続できない理由は次のようなものがあると考えています。

- ・組織のトップが制度の重要性を認識していないため職員に対する訴えが弱い。そのため提案を促進する職員の問題意識が低く、改善への発想が浮かばない。
- ・事務局の意欲が不足しており事務処理も遅く、活性化への工夫も少ない。
- ・せっかく出てきた提案について反応が鈍い。または、提案についてマイナスの批判が多く、提案を生かそうとしない。
- ・所属する上司に理解が無く取り組みが停滞する。
- ・制度そのものに問題があり複雑で書くことに抵抗を感じる。

以上のようなことが制度を停滞させ活性化しないのであります。

反面、この改善提案制度を活性化することにより、職員の町政への参加意識を高め、末端にまでヤル気を醸成させることもできるのであります。

当町においても是非ともこの制度を活性化させ、より良い町政と住民サービスの向上を目指すべきだと考えます。

事務局である河上総務課長に現状打破と今後の取り組みに対する見解を求めます。

職員の改善工夫提案制度について

(平成 24 年第 2 回津幡町議会定例会 6 月会議 一般質問)

平成 24 年 6 月 22 日

黒 田 英 世

今ほど申し上げましたように職員の改善工夫提案制度が継続し、効果を挙げるには組織のトップ、当町においては矢田町長のこの制度に対する重要性を認識することが最も求められています。

改善工夫制度の発端は、ご存知の経営学者のドラッカーであり、ドラッカーは戦争中、アメリカのGMの工場で見学した作業員が自発的に改善工夫する姿に感銘して、現場からの提案書を書いたのが発端でありました。

その後、労働組合がこのような提案は労働者の仕事ではないと反対され、寄せられた約 30 万件の提案書はお蔵入りとなりました。

トヨタは、戦後社長交代までを余儀なくされた経営の低迷期にこのアメリカのGMの社員の提案書、約 30 万件をそっくり貰い受け、この分析結果から改善提案制度の推進に社を挙げて取り組んだと言われていています。そしてトヨタはこの制度にいち早く積極的に取り組み大きな収益を上げていると共に未だに進化し続けているのはご存じの通りであります。

現場の仕事は末端の職員が一番良く知っているのもであり、より良い行政や住民サービスの提供、職務の効率化は行政への信頼と協力への近道であり、新たに事務局を新設してでも制度の活性化を図る価値は充分あると確信しております。この件について現状分析と今後の取り組み姿勢について矢田町長の見解をお尋ねします。

「目安箱」の実情について

(平成 24 年第 2 回津幡町議会定例会 6 月会議 一般質問)

平成 24 年 6 月 22 日

黒 田 英 世

役場の正面にかなり以前から「目安箱」が設置されております。この目安箱は町政の盲点となっているような事柄や住民サービスについて改善すべき点あるいは町政に対する不満などに関して町民の皆さんから広く行政や議会に関するご意見を頂戴し、より良い町政や行政サービスを提供する事を目的として設置されているものと考えます。

さて、当町ではこの目安箱に昨年 1 年間に何件程度、意見が寄せられているのか。また、過去 5 年間の寄せられた意見の推移についてお聞かせください。そしてこれ等の意見に対し、どのように対応しているかをお聞きします。

また、寄せられた意見や苦情について回答するのはそれぞれ所轄の部門で対応するのですが、目安箱制度の全体を掌握しきっちりと対応しているかどうかを見ている部門は総務課とお聞きしています。これら寄せられた意見に対し各課の対応状況についてどのように検証されているのかをお聞きします。

こういった民意に対して真摯に対応している行政側の姿勢が町民の皆さんとの信頼関係が醸成され、更なる町政の発展につながるものと考えます。また、匿名のものが多いたと思いますが投稿者のお名前がハッキリしているものには本人に対し直接回答するのが投稿していただいた方に対する義務であり責任だと考えます。

更に、こうした行政の姿勢を広く町民の皆さんに知っていただく方法としては「広報つばた」に目安箱コーナーを設け、意見が寄せられてから遅くとも翌月または翌々月には、即時に実施できるもの、すぐにはできない事項については理由を明確に示すと共にいつまでに結論を出すかという事や、まったく無理であることなどにもその理由や見解を丁寧に公開してこそ「目安箱」の制度が生きてくるものと考えます。もとより財政や予算などに関連することもあるでしょうからこの辺りの事情についても回答すべきものと考えます。

以上、一連のことについて河上総務課長の答弁を求めます。